
本当の気持ち・・・

小泉アスカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本当の気持ち・・・

【NNコード】

N7649M

【作者名】

小泉アスカ

【あらすじ】

メイの真実を知った将。

優羽から新たな

情報を知るが・・・

ひじり、教えてくれなかつた・・・(前書き)

スイマセン、やり方
分からなくて、何かいっぱい
本当の気持ち・・・
本当の気持ち・・・
つて一箇繋がつちゃいました

ひりして、教えてくれなかつた・・・

先日、放課後に呼び出され行つて見たといひには、何とあの呼び出した寺野将が、そこで話を聞くと「付き合つてくれないか?」と言ふ告白だつた。

さあ、これからメイはどうするのか・・・

「ねえ、周囲には絶対教えないでね? 噂になつたりしたらうるさいから・・・。お願ひ。」と、メイが必死に頼んでいた。すると将が「俺だつて言つ氣はない。うちのクラスのやつらはみんな情報をすぐにはらしたがる人ばつかだから教えねえよ。」

と、将が怒つたような顔でそう言つた。

「何で怒つた顔するの? うち何か悪い事言つた?」と、メイは悲しげな顔で将を見た。

「そんな悲しい顔すんなよ。俺お前を責めたわけじゃ、ないんだから・・・。」

空気がすゝく気まずくなつてしまつた。本当はいりなりたくなかつたのにと心の中で思つてる物のそれをどう伝えたら良いか分からなくなつてしまつた。すると急にメイが

「ねえ、今日は一回家に帰るね。それで、今度またデートしよつ」と少々引きつった顔で笑つて言つた。

「ああ、今日は何か俺の性で悪かつたな・・・。また今度な・・・。次はお前の行きたい所行こうぜ!」

「・・・うん。じゃあ今日はこれから用事あるから帰るね。・・・

じゃあ

「・・・ああ。」このとき一人はそのまま別れてしまつたらどうしようつと、嫌な予感が頭の中を過ぎつた。

あれから一週間後・・・

急にメイからメールが届いた。内容は、

【こきなりで「めんなさい」。でも、今一番最初に言いたかったから。
…。実は、私と別れてほしいの。

理由は聞かないで下さい。でも、お願いします。本当は私も別れたくはないんです。「めんなさい…】

衝撃を受けた。まさか、別れる理由つて一週間前のある？そんな…

・
俺、なんて事をしてしまったんだ。取り返しのつかない事を…。
と、将はこの日ずっと自分を責め続けてしまった。

次の日

将はなぜ別れるなんて言われたのかを探るためメイの周囲の人間に聞き込みをした。

「（）の近くに住んでいる日々野メイさんのお宅で何かありましたか？」

何でも良いんです。お願いします。教えて下さい」と、熱心に聞いた。

それで、一つ情報を得た。それは、メイは今まで必死で隠してきたが、メイは実は重い病気にかかっていてそれを治療するために外国に引っ越してしまったと言つ。それなら教えてくれても良かつたじやねえか…。何で教えてくれねえんだ…。

でも、病気の事も教えてくれなかつた。何で俺には…。他の人は知つてたのに…。

その日、将はメイにあのメールの返信をした。

【俺はお前が今どんな状況になつてたとしても、守つてみせるから別れるなんて言わないでくれ。お前が大好きだよ。
絶対別れたくない。俺、今から会いに行くから、家開けといってくれ。】

と、言う物だつた。その2分後に返信が来た。

【分かった。今誰もいないから来て良いよ。でも、理由は言わないから、と言つたか言えない。】

【「めん、理由はもう周りに聞いちゃった。悪気はなかつた。でも、急に別れるとか言われたから何でかな?」と思つて、
ごめん・・・。】

【謝らなくて良いや。理由を知つてゐるなら話は簡単だよね。そう言
えばいつ来るの?もしかして
まだ家も出でないとか?】

【家出たよ。そして、もつお前の家の前にいるよ。びっくりせせよ
うと思つてさ。何か嫌だつた?】

【いや、大丈夫。それじゃあ今すぐ迎えに行くな。】

急にチャイムが鳴つた。メイはドアを開けた。そこに居たのは、つ
いさつきまでメールをしていた将だった。

「よつ! 何で急に別れるとか言い出したんだよ。俺は別れたくない
よ?」 「だつて、こんな病弱な彼女にしてちやダメだよ。」 悲し
い顔して、メイが言つた

「・・・メイ、俺。」ついに分かつてくれたかとメイが思つた。
「俺はメイが病弱だとしても、別れないよ。俺はちゃんとお前の事
愛してるよ。安心しろ。」

急にメイが大粒の涙を目に浮かべた。

「何で泣くんだよ。本当の事言つてるのに。」

「だつて、初めて言われた。愛してるなんて・・・。」「言われて
嬉しい?なら、好きだ。好きだ。好きだ。好きだ~!」 メイはすぐ
く顔が赤くなつてしまつた。

「やめて、恥ずかしい。ずっと言つなら、もつ帰つて(黙)」「い
や、やめない!俺はお前が好きだからっ!」 笑顔で将は言つた。
「もういい加減にしてっ!」 恥ずかしそうな顔をして、メイは笑い
泣きをした。

「もう、うち家に入る!さよなら!」・・・何で?まさか、怒つた
?怒らせるつもりはなかつたのに・・・。
どうしよう、勇気づけてあげようと思つたのに・・・。
あいつに嫌われたのかな?ちょっと悪い事したかな?

それから一週間後

将の家に誰かが来た。同じクラスの優羽だ。

「おい、将！お前何で空港に行つてないんだ？」

「？何で空港？俺別に行く用事が……と、言つと優羽がびっくりしたような顔をして

「知らねえの？メイ、今日外国に行つちゃうんだよ？」「！何で？俺だけ？教えられてないの……」

何でだよ！何で俺には……メイ、待つてくれっ！頼む……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7649m/>

本当の気持ち・・・

2010年10月11日04時08分発行